



2025 年度 傾向と対策

2025年度 英語 AO・公募制推薦入学試験【全学部共通】

傾向分析 基礎的文法と語彙力、文脈から答えを導く読解力が必要な出題となっている

1 出題形式は？

大問数3題、解答数20問、全問マークセンス方式である。AO入試は大問Ⅰ（長文）10問、大問Ⅱ（対話文）5問、大問Ⅲ（英文法・語法）5問という構成であり、公募制推薦入試は大問Ⅰ（長文）5問、大問Ⅱ（英文法・語法）5問、大問Ⅲ（対話文）10問という構成である。試験時間は、国語または数学と合わせて60分である。

2 出題内容はどうか？

「長文」は身近な題材についての説明文で、内容の理解に関する問題、「対話文」は文脈に合う発言を選ぶ問題である。「英文法・語法」は基本的な文法事項の理解が問われるものである。

3 難易度は？

どの問題も文中で用いられる語句は平易なものが多い。文法事項も高校での学習範囲の基礎を固めておけば十分に対応できるが、「対話文」には難しい表現も一部含まれている。

受験対策

1 長文は、設問と交互に読み進めながら、内容を把握していこう

AO入試、公募制推薦入試ともに、設問は本文の流れに沿っているので、常に設問を見ながら、本文を読み進めていこう。今年度の語数は、公募制推薦入試の約240語に対し、AO入試は約290語で、加えて設問も多く、語句や英文法の問題も含まれている。語彙や英文法の知識を身につけつつ、問題集などで同様の長さで一定のまとまりをもつ英文に慣れていこう。

2 対話文は、設問箇所の前後をしっかりと読みとってから、選択肢を確認しよう

いわゆる「会話表現」が問われることはほぼなく、話し手の意図や気持ちを理解した上で、適切な発言を選ぶ問題が中心となる。語数はAO入試、公募制推薦入試ともに約300語であるが、公募制推薦入試は設問数が多い。「be into ～：～に夢中である」などの読み取りにくい表現も含まれ、難易度がやや高いが、設問箇所の後に出てくる発言にヒントが含まれる場合が多いので、話の流れを的確につかむ練習をしていこう。

3 英文法・語法は、基本的な事項を繰り返し学習して、速やかに解こう

AO入試、公募制推薦入試ともに小問数は5題で、今年度は両入試とも、接続詞・前置詞・助動詞・代名詞などのいわゆる「機能語」がやや多く出題された。しかし、英文法や語彙力が必要な問題も出題されるので、過去問題集や市販の英文法・語法問題集などで基礎をしっかりと学習したうえで、速やかに解いて、長文や対話文を解くための時間を確保できるようにしよう。

2025年度 数学 AO・公募制推薦入学試験【全学部共通】

傾向分析 基礎学力重視で、数学Ⅰ・Aの分野から偏りなく出題されている

1 出題形式は？

大問の出題は3題で、全問必答である。大問Ⅰは5問の小問集合、大問Ⅱ、Ⅲはそれぞれ1つの分野について3問の小問が出題されている。解答形式は全問マークセンス方式である。試験時間は国語または英語と合わせて60分となっている。

2 出題内容はどうか？

出題範囲は数学Ⅰ・Aであり、「数学と人間の活動」を除く全単元からまんべんなく出題されている。大問Ⅰの小問集合は数学Ⅰと数学A、大問Ⅱは数学Ⅰ、大問Ⅲは数学Aから出題されている。また、数学Ⅰの基礎学力を確認するため、大問Ⅰで計算問題を多く出題するなどの工夫がされている。

3 難易度は？

基本から標準レベルの問題が中心で、分野を問わず基礎学力を確認するための問題が多い。また、複雑な融合問題などはなく、教科書や参考書の例題に準じた典型的な問題が多い。難問は出題されていないので、基本問題を丁寧に解き、類題演習を通じて基礎学力を定着させていこう。

受験対策

1 教科書や参考書の例題を活用し、基礎を確実に固めよう

教科書でも説明がなされるような基本から標準レベルの典型問題が多い。そのため、教科書や参考書の例題を丁寧に解き、基本的な公式や定理について理解しておきたい。ただし、公式や定理は丸暗記するのではなく、教科書の節末問題や問題集の練習問題などを通して使い方を身につけ、基礎学力をさらに充実させることが重要である。

2 計算の精度を高め、最後まで解き切る力を身につけよう

全問マークセンス方式であるため、解法が合っても、計算ミスやちょっとした勘違いが致命的となる。普段から解き方だけを見たり、解答方針がわかったからといって途中で計算をやめたりせずに、最後まで自分の力で解き切る練習をしておこう。また、ミスした箇所をすばやく見つけるためにも、計算用紙を有効に活用して計算過程は消さずにそのまま残しておこう。

3 過去問題を解き、実戦力を磨いていこう

学習してきた成果を試すためには、過去問題を用いた実践が必要である。全日程とも数学Ⅰ・Aが出題範囲であるので、できるだけ多くの過去問題に目を通しておこう。また、分野によらずまんべんなく出題されているので、過去問題の演習は、そのレベルを体得するだけでなく出題範囲全体の復習にもなり、受験対策としても大いに有効である。

傾向分析 漢字力・語彙力が重点的に試される出題となっている

1 出題形式は？

解答形式は全問マークセンス方式である。AO入試・公募制推薦入試とも、大問2題の出題構成で、論理的文章を題材とした読解問題と、四字熟語、ことわざ・慣用句を題材にした知識問題が出題されている。試験時間は英語または数学と合わせて60分である。

2 出題内容はどうか？

知識問題が独立した大問として出題される点が特徴的である。また、読解問題においては、漢字問題や言葉の意味を問う問題が必ず出題される点に特徴がある。読解問題で確実に得点を積み重ね、さらに知識問題で取りこぼしをしないことが合格への近道である。

3 難易度は？

読解問題で出題される文章は、比較的短めの文章で論旨・内容もつかみやすく、読解が得意な人にとっては高得点が狙える内容となっている。知識問題については、AO入試で「肝胆を砕く」というあまりなじみのない言葉も出題されたが、一度は聞いたことのあるような言葉が出題の大半を占めており、難易度は高くはない。

受験対策

1 漢字力・語彙力を十分なものにしよう

漢字問題や四字熟語、慣用句・ことわざなどが確実に出題されるため、その対策は十分に行っておきたい。漢字については書き取りの問題集、四字熟語や慣用句・ことわざについてはその分野の問題を集めた問題集に取り組むことが、短期間で力を伸ばすには効果的である。また、読解問題に取り組むなかで出てきた意味の曖昧な言葉を必ず辞書などで確認する習慣をつけよう。

2 問題演習で読解力を伸ばそう

読解力を伸ばすには、1日2題など問題数を決め、集中して問題に取り組むことが最適である。その際は、問題文の内容理解をしていくことが基本となる。問題文の内容をある程度理解してから設問に取り組み、設問に取り組んだあとは必ず解説を読んで、問題の解き方を理解しよう。

3 文章と接する時間を持とう

大学入試で国語が試験に課されるのは、大学で学ぶために必要な国語力があるかどうかを見るためである。入試を突破するだけでなく、大学入学後を見据えて国語力を伸ばすようにしたい。そのためには、興味のある分野については、少し背伸びしてこれまで読まなかったような硬質の本を読み、要点をまとめる練習をしよう。じっくり本と向き合うなかで新しい知識も増え、読解力も身についていくであろう。

2025年度 英語 一般入学試験【全学部共通】

傾向分析 長文、会話文、語彙、文法、語法の基礎力の充実を図ろう

1 出題形式は？

大問数は4問、解答数30問の構成で、解答は全問が4者択一のマークセンス方式である。
試験時間は60分である。

2 出題内容はどうか？

大問Ⅰの長文問題では文脈の理解を問うもののほか、語形、語句の指示対象、同意語の知識なども問われる。大問Ⅱは会話文問題で、会話の流れに合う発言を補う形式である。大問Ⅲと大問Ⅳは空所補充問題で、大問Ⅲでは語彙の知識、大問Ⅳでは文法や語法の知識が問われる。

3 難易度は？

前年度に比べ長文問題の長さが短くなった。内容や語彙のレベルは変わらないので、制限時間内で、よりしっかり取り組めるようになったと思われる。その他の部分は質、量ともに前年度と変わらない。高校3年生までの学習範囲の基礎をしっかりと理解しておくことが必要である。

受験対策

1 長文は、身近な題材の300～350語程度の英文に慣れておこう

本年度は、「太陽光発電」や「日本の少子化・高齢化・都市集中化」というテーマとともに300語程度の英文の内容を問うものであった。設問の順番はおおむね文章の流れに沿っているので、英文と設問を交互に読み進めながら、内容の理解に努めていけば、英文全体の理解を問う最後の設問に対しても、英文中の確認すべき箇所を見つけやすくなる。

2 会話文は、冒頭の場面説明をよく読み、会話の流れを追っていこう

「会話表現」も出題されるが、ほとんどは会話の流れに合った発言を選ぶ問題である。空所の前だけではなく後にもヒントがあるので、前後をよく見て答えることが大切である。なお、空所と空所の間が短いので、もし間違った選択肢を選んでも、次の空所の選択肢を考えたときに間違いに気づける可能性が高い。そのため、対話の流れに乗ってすばやく解答する方法が有効である。

3 語彙と文法・語法は、基本事項をしっかり学習しておこう

大問Ⅲは、短文全体の内容を把握して適切な語句を選ぶ形式なので、基本的な単語力と短文を素早く読む力の両方が必要である。よって単語集での学習は欠かせない。大問Ⅳは、文法や語法に関して正しい語句を選ぶ問題で、英文法語法の問題集などでしっかりと学習しておく必要がある。長文や会話文に時間をかけられるよう、短い時間で解く練習をしておこう。

2025年度 数学 一般入学試験【全学部共通】

傾向分析 数学Ⅰ・Aの全範囲から偏りなく出題され、基礎学力が問われる

1 出題形式は？

大問は5題出題され、全問必答である。大問Ⅰは3問の小問集合であり、大問Ⅱ～Ⅴはそれぞれ1つの単元について3問の小問が出題されている。解答形式は全問マークセンス方式である。試験時間は60分となっている。

2 出題内容はどうか？

出題範囲は数学Ⅰ・Aであり、「数学と人間の活動」を除いてまんべんなく出題されている。前期2日程ともに、大問Ⅱ～Ⅳは数学Ⅰ、大問Ⅴは数学Aから出題されている。また、大問Ⅰでは、数学Ⅰの基礎学力を問う問題や、大問Ⅱ～Ⅳで出題されていない単元に関する問題が出題されるなどの工夫がされている。

3 難易度は？

基本～標準レベルの問題が中心で、分野を問わず基礎学力を確認することに意識がおかれている。難問や奇抜な発想を求める問題はなく、教科書や参考書の例題のような典型的な問題が多い。公式や定理などの基本事項を理解し、問題集で繰り返し練習して使いこなせるようにしておこう。

受験対策

1 演習を重ねて学習量を確保し、基礎知識を充実させておこう

いずれも基本～標準レベルの典型的な問題を中心に出版されているため、まずは教科書や参考書の例題を通して、公式や定理などの基礎事項を身につけよう。その後、教科書や参考書の練習問題や問題集に取り組み、解き方への理解を深めて応用力を養うことが大切である。数学Ⅰ・Aから幅広く出題されるため、不得意な単元を残さずに対策しておくことも重要である。

2 日頃から計算力を意識し、試験本番でのミスを防ごう

全問マークセンス方式であるため、解き方が合っても、計算ミスなどが致命的である。試験時間内に大問5題を解き切るためにも、普段の問題演習の際は、発想や立式ばかりを意識するのではなく、計算をとばさずに最後まで正確に解き切る練習をしておくことが大切である。また、問題には広い計算スペースがあるので、解く過程を書き残して見直しに有効活用しよう。

3 過去問題を解いて実践力を向上させ、試験に備えよう

例年、60分間で大問5題を解答する形式は変わっておらず、出題範囲や難易度にも大きな変化はない。そのため、過去問題を活用した対策は依然として有効である。時間をはかりながら過去問題を解き、問題のレベルや時間配分を把握しておこう。

2025年度 国語 一般入学試験【全学部共通】

傾向分析 出題傾向をふまえ、しっかりした準備を行おう

1 出題形式は？

試験時間は60分で、評論文・論説文を題材とした読解問題が2題出題される。各大問の文章量は2,200字前後で大学入試としてはやや短めの文章である。設問については各大問とも小問数10問、解答数16個であり、選択肢5つの中から正解を選ぶマークセンス方式となっている。

2 出題内容はどうか？

大問1・大問2とも、問1…漢字問題、問2…語句の意味を問う問題、問3…接続語・重要語の空欄補充問題、問4～問8…空欄補充や傍線部の内容、理由等を問う問題、問9…脱文挿入問題、問10…内容合致問題となっており、毎年同様の出題が続いている。いろいろな角度から内容理解を試す出題となっている。

3 難易度は？

題材となっている文章は、読み取りやすい文章が多く出題されている。問われる内容についても、文章内容がしっかり理解できていれば、迷うことなく答えることができる出題となっている。

受験対策

1 学習計画をしっかり立て、計画通り学習を進めよう

過去問題を解き、現在の力を確認しよう。そしてそれをふまえて学習の指針を立て、日々の学習計画に落とし込もう。例えば、読解問題で5～6割程度しか得点できないのなら読解問題に毎日2題取り組むように、漢字問題で取りこぼしが多いなら漢字演習を集中的に行うようにすればよい。合格に向けてどのような学習を行えばよいかを常に意識することが大切である。

2 問題演習で読解力を鍛えよう

学校の授業が読解力を養うベースになる。授業準備をしっかり行うとともに、集中して臨むようにしたい。また、それに加えて問題演習を行うことも読解力の向上には欠かせない。さまざまな文章を読み込む中で新しい知識・考え方に触れるとともに、読解力を向上させていこう。文章内容と答えの導き出し方をしっかり理解するという点に気をつけて学習を進めよう。

3 漢字問題に対する準備はしっかり行おう

漢字問題のウェイトは全体の2割に過ぎないが、確実な得点源となる。しっかり準備を行い、失点のないようにしたい。また、文章を読む中で語彙を増やし、書ける熟語を増やしていくことも漢字問題に強くなるためには必要である。授業や問題演習を行う中で出会った言葉については必ず意味・用法を理解するなどして語彙を増やしていこう。